

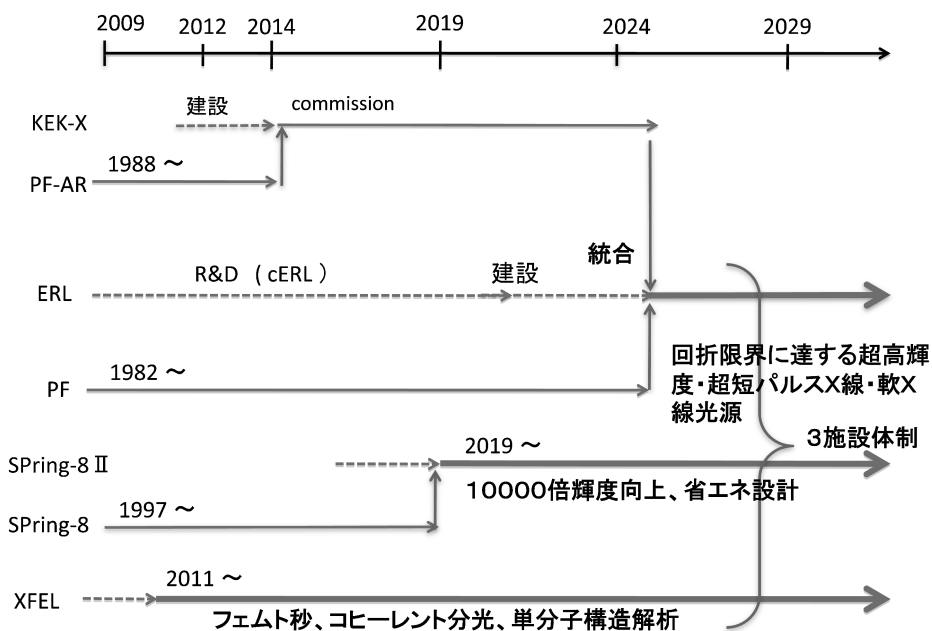
将来計画と事業仕分け

雨宮慶幸 (東大・新領域)



昨年10月に尾嶋会長執行部が発足し、最初の評議委員会で放射光大型計画WG(座長:雨宮慶幸)の発足が承認されました。このWGの役割は、放射光科学における将来計画に関して、学会が核となって他分野を含めて議論を行い、そのロードマップを作ることです。このWGの座長を仰せつかりましたので、これまでの経過を簡単に報告したいと思います。

WGのメンバーは、尾嶋正治会長、下村理元会長、石川哲也委員、小杉信博委員、若槻壮市委員に私を含めて6名です。このWGが発足した時は、今後2年間でじっくりと議論する予定でしたが、学会の大型計画に関する検討委員会(座長:岩澤康裕)から昨年末に本学会に、「放射光科学における100億円規模の大型計画に関するロードマップを示してほしい」との要請がありました。また、1月27日には物性物理学・一般物理学分野の大型計画に関するシンポジウム(主催:日本学会)が開催され、「放射光科学の現状と将来計画」という題目での講演依頼がありました。このような事情のもと、本WGでは、急遽、現時点でのロードマップを取り纏めることになりました(下図)。短期間で取り纏めであったことから、このロードマップは今後変更があり得るとの条件付での取り纏めです。この図を総会では示されましたが、はじめてご覧になる会員も多いのではないかと思います。



今後 WG では、メンバーの拡充を行って、100億円以下の規模の計画の把握も行い、放射光学会会員のみならず、放射光を利用する各分野の研究者の意見を取り入れて議論を進めていきたいと考えています。皆様からの積極的なご意見を期待します。

ところで、昨年11月の事業仕分けは、放射光科学に激震を与えました。一時は、SPring-8、PF の運転経費の大幅削減が懸念されました。幸い、平成22年度はなんとか小幅な削減にとどまり、現状の運転を維持できそうです。しかしながら、次年度以降はどうなるかは不透明で予断を許しません。このような時に、「将来計画の議論?」と思われる方もいるかと思えます。しかし、放射光の有用性とその真価を真剣に議論し、放射光科学が目指すべき方向を考えるという点では、将来計画を議論してロードマップを作ることをこそ事業仕分けへの正しい対応であると考えます。

「夢の光」と呼ばれてきた放射光は、研究者のためだけの夢の光ではなく、広く国民一般にとっても夢の光であり、ロマンを運ぶ光であることを強くアピールしていく必要があると思えます。